

平成23年度 学 校 評 価

学校教育目標

1. 真理と学問を愛し、豊かな知性に基づいて正義と道徳とを重んずる精神を育成する
2. 清純高潔な品性と豊かな趣味とを育成する
3. 自分を理解し愛するとともに、自然及び他人に対する深い理解と愛情とを養う
4. 勤労の価値を自覚し、積極的に活動する人間育成に努める
5. 健康な身体と明朗で寛容な態度を養い、何事にも全力を尽くせる人間形成に努める

中・長期的目標

1. 基礎学力の定着を重視した進学校
2. 安心して学校生活を送れる環境
3. クラブ・生徒会活動で自己を生かせる学校
4. 地域に開かれた学校

総合評価

学力方面では、上位者へのサポートでは成果があった反面、ルーティーンによる成果や家庭学習の定着に向けてはよりよい方策を模索する必要がある。安心して学校生活を送れる環境という点に関しては、特に支援を必要とする生徒への体制が整い、十分な対応ができつつある。規範意識を高めるといふ点ではさらに啓発・指導が必要である。特別活動に関しては、クラブ活動も活発に実施されており、生徒会でも学校内外の美化や、ボランティア活動などに積極的にに関わり、須坂東高生としての自覚と自信が身につけてきている。地域に開かれた学校に関しては、主に生徒会による交流事業が実現できた。

「評価」欄の「A～D」…A(達成できた)・B(だいたい達成できた)・C(あまり達成できなかった)・D(達成できなかった)

本年度の重点目標	評価の観点	評価(成果と課題)	A～D	改善点と向上策
0 生活指導・学習指導・進路指導を充実させる土台として、教師と生徒との対話・面談を重視する。	a 保護者懇談会や考査ルーティーンの一環としての面談を充実させる。 b 必要に応じて面談の機会を設定し、生徒個々に適切な指導を行う。	(1学年)保護者懇談会や必要に応じた面談は効果的に実施できた。 (2学年)ルーティーンの一環としての面談については、時間的に実施できる時間的余裕はなかった。 (3学年)考査ルーティーンの一環としての面談は時間を作るのが難しかった。	B	「考査ルーティーン」自体が形骸化しており、見直しが必要である。放課後等の時間を有効に活用するために、会議の精選を行う。
1-1 日々の授業を充実させる。	a 教師自らが、授業開始時刻と終了時刻を厳守する。 b 生徒の集中力を養成する工夫を実践する。 c 授業公開や教科内での研究を活発にして、進度や授業内容の充実を図る。 d 生徒が家庭学習を習慣化できるよう指導をする。	a 概ね実行されている。 b 教科担任ごとに工夫をしている。 c 授業公開は期間を決めて行ったが、参加状況は良くなかった。 d 教科ごとにノート提出・課題提出などの工夫をした。また、「確認テスト」の事前課題で家庭学習の習慣化を図った。	B	a 今後も継続していく。 b 教科内での意見交換・研究を続けていく。 c 授業公開の趣旨を十分理解して、参加しやすい態勢をつくる。 d 家庭学習の習慣化を目指し、よりよい方策を模索していく。
1-2 学習習慣の確立と学習方法を習熟させる。	a 考査ルーティーン(目標設定→計画立案→やり直し→反省のサイクル)を習慣化させ、特に考査前の学習時間を保障する。 b 質問タイムを充実させ、学習室の有効活用を図り、考査前学習週間の学習環境を整える。	a 「考査ルーティーン」は継続して実行している。クラブの協力もあり、考査一週間前の学習時間が保障できた。 b 質問タイムは実行できなかったが、クラブごとに考査学習をする環境が整いつつある。	C	a 「考査ルーティーン」の中身・運用の仕方を検討する。クラブに加入していない生徒の勉強する習慣をつけさせる。 b 学習室はもっと使いやすく(鍵・灯油・エアコン)なるように検討する。
1-3 確認テストを充実させ、進路目標を実現するのに必要な基礎学力を身につけさせる。	a 事前の課題学習も含めて、確認テストを充実させる。 b 校外模試における学習到達度の向上を図る。	a 課題の提示が遅れることがあった。生徒の実態に合わせて「確認テスト」の内容を検討する必要がある。 b 進路希望と学習到達度を意識した指導・受験後の指導が不十分だった。	B	a 「確認テスト」の意義を共有し、生徒にも周知徹底する必要がある。 b 模試結果を共有し、生徒の実態を把握する。進路情報を提供しながらやる気を喚起する。 「FINE」システムを活用する。
1-4 ハイレベル講座を充実させ、一般入試で希望進路を実現できる学力を養成する。	a 年間の実施回数を適正化し、生徒の進路意識を高める。 b 講演会や補習を充実させ、意欲ある生徒集団をサポートする。	a 講演会を1回実施。数学の記述対策補習を実施しており、意欲的に学習に取り組み力を伸ばしている生徒もいる。 b 年間を通じて「希望者補習」「不振者補習」を実施し、学年ごとに生徒をサポートすることができた。	A	a 補習・講演会の内容と時期を検討する。 b 早い時期からの意識付けが必要。学年の枠を超えての方策も検討する。
2-1 生徒の規範意識を高める。	a 生徒の人権意識を高め、モラルを向上させる。 b 交通安全への意識や交通マナーを向上させる。	a 盗難被害は減少した。職員による巡視や啓発を続けてきた成果とも思われる。問題が起こってから対処するのではなく、未然に防げるような対策が必要である。 b 1年生を対象とした自転車安全教室を4月に行った。また、春・秋の交通安全週間に加えて、年末にも交通安全指導を行った。大きな事故はなかったが、事故自体は何件かある。交通ルールやマナーを守り自らの命を守るように、指導の継続が必要である。	B	各種講演会や情報の伝達を、全校・学年・HR単位で関係の係と連携して行ったり、生徒向けのプリント等を活用し、年間を通して規範意識の向上に努めること。
2-2 身だしなみの改善を図る。	a 身だしなみ検査の定期実施と指導を充実させる。 b 状況に応じた服装ができるよう、生徒の意識を向上させる。	a 定期考査の際の頭髪検査が定着し、全体としては頭髪の状態は改善がみられた。指導に素直に応じない一部の生徒への対応が今後の課題である。 b 始業式・終業式等でのジャージ禁止を昨年度より行い、本年度はほぼ定着した。しかし、ジャージでの登校・受講については今後の課題である。	B	現在の身だしなみ検査は定期考査時に行い、頭髪に重点を置いている。今後、身だしなみ検査の方法を検討し、よりよい方法を模索したい。 服装については、新しいルール作りが必要な時期に来ていると思われる。
2-3 毎日の清掃を徹底させ、環境・衛生面の向上に努める。	a 職員・生徒が協力して、清掃の徹底を図り、美化に努める。 b 特に、トイレ・昇降口・階段・廊下等を重視する。	a 美化委員を中心としたワックスがけや巡視、校外清掃や、学年単位の校舎外清掃により、一定の成果が見られた。また、ゴミの分別に関しては須坂市の担当者より評価していただいた。しかし、このような取り組みにもかかわらず、学校の隅々までなかなかきれいにならない実態がある。 b 美化委員はもとより、生徒会執行部やクラブ部員なども環境整備に協力して、トイレ清掃や校外清掃等を行うことができた。全校で日々の清掃や監督を徹底させることが課題である。	B	a 清掃監督場所が広範囲に及ぶ状況を改善し、用具の充実をはかる。 b マナーや意識面を向上させることを通じて、校舎・施設を汚さない指導を心掛けたい。そのために美化委員による巡視、毎月の大掃除を徹底したい。
3-1 クラブ加入を積極的に勧め、活動の一層の充実を図る。	a 新入生を含めクラブ加入率8割を目標とし、各クラブ活動の充実と、それによる学校の活性化を図る。	a 新入生のクラブ加入率と全体の加入率とも約8割加入を達成。全般的にはクラブ活動によって、学校が活気づいている。が、夏休み以降に退部する生徒がいることが懸念される。	B	a 部活動を途中で辞める生徒がおり、その後の動向が懸念されるので、その実態調査等を行い、よりよい部活動の一助となるように留意していく必要がある。
3-2 校外清掃等地域への奉仕活動を通し、生徒の自主的精神を育てる。	a エコ活動、ボランティア活動、校外清掃等、クラスへの呼びかけをより一層行い、一般生徒の多くが参加できる活動に発展させる。 b PTA役員も参加も含め、「住民・生徒懇談会」を充実させ、生徒の自主的な問題解決能力を高める。	a 東高祭時の「クラス対抗エコキャップ大会」他、多くのボランティア活動、市への協力を通し、東高の存在を示し、生徒の自主的精神を育てることが出来た。 b 「住民・生徒懇談会」についてはその時期・内容を検討した結果、実施しなかった。が、様々な機会を活用して生徒の自主的な問題解決能力を高めることに留意して生徒会活動を進めた。	B	a エコ活動、ボランティア活動の意義をふまえ、生徒の活動を援助できるようにしていく必要がある。 b 生徒の自主的な問題解決能力を高めるために、活動の機会を精選して提供することに留意していく必要がある。
4-1 PTA活動を活性化させる。	a 学級PTAを実施し、情報交換の場として活用する。 b 学校情報の確実な伝達に努め、保護者との意思疎通を図り、連携を深める。	a PTA総会当日に学級PTAを開催し、情報交換の場とすることができた。 b 役員会の開催、PTA通信の発行等により情報伝達や連携に努めた。	B	PTA活動全体の見直しをすすめ、参加を増やす工夫をする必要がある。 学校情報が確実に伝達するよう工夫する。
4-2 文教地区を利用した小中高連携を図り、教職員及び生徒間の交流を深める。	a 近隣校との交流を拡大し、市内4高校の連携も図る。 b 「エコ活動」等を通じて、小・中の児童・生徒会と連携し、生徒間の交流を深める。	a 高校間では「信州岩波講座高校生版」や「クリスマスレクチャーin須坂」等を通して交流を拡大し、連携することが出来た。さらに常盤中学とは両校間道路の清掃作業を協同で行うことが出来た。 b 「a b nエコキャップキャンペーン」の活動を、常盤中学、須坂小学校に呼びかけた。本校では、通年活動として取り組んでおり、今年度は約41,000個を回収し、提供した。	B	a 生徒会執行部の生徒に意義ある活動の機会を提供して、一般生徒にフィードバック出来るように留意していく。 b 他校生との合同活動、交流によって、生徒会執行部の生徒が本校生徒としての自覚と誇りを持っていくように努める。
4-3 「日滝の杜だより」の発行を継続するとともに、ホームページの一層の充実を図る。	a 「日滝の杜だより」の定期発行と内容の充実を図る。 b ホームページの更新頻度を高め、発信する情報の質をともに充実させる。	a 昨年並みに発行し、内容の充実もできた。 b 頻繁に更新することができた。	B	a 2か月に一度ぐらいの発行を目指したい。 b 同窓会・PTA等も含め、更新したい。